

水道料金制度のあり方について（素案）

— 資 料 編 —

目 次

1	水需要状況の変化・・・・・・・・・・・・・・・・	資－1
2	財政状況・・・・・・・・・・・・・・・・	資－6
3	効率的経営の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・	資－8
4	施設状況・・・・・・・・・・・・・・・・	資－9
5	料金体系・・・・・・・・・・・・・・・・	資－11
	（1）現行の料金体系・・・・・・・・・・・・・・・・	資－11
	（2）用途別料金体系／口径別料金体系・・・・・・・・	資－12
	（3）基本水量制・・・・・・・・・・・・・・・・	資－14
	（4）逦増型料金制・・・・・・・・・・・・・・・・	資－15

1 水需要状況の変化

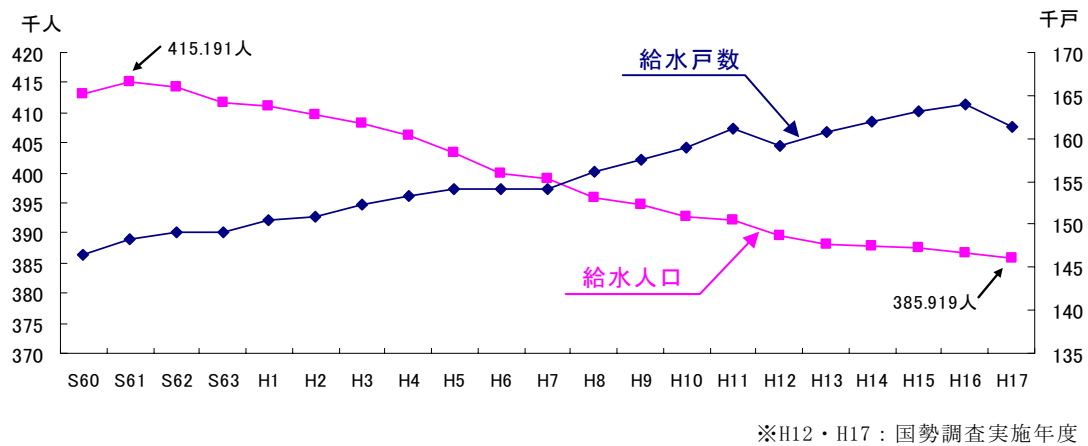


図 1-1 給水人口および給水戸数の推移

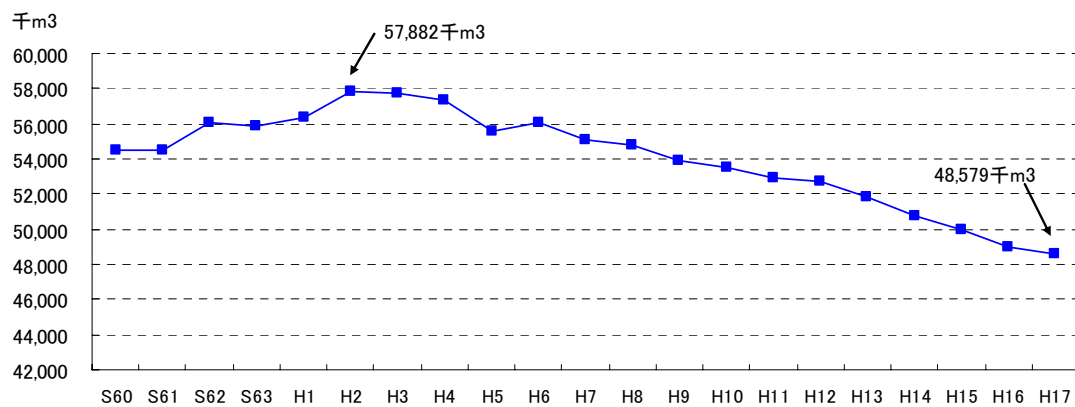


図 1-2 給水量の推移

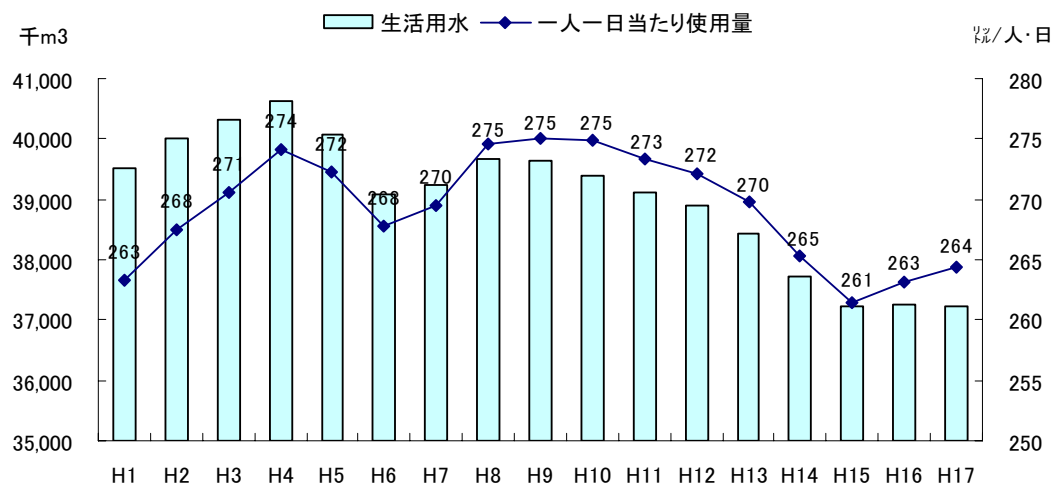


図 1-3 生活用水量と 1 人 1 日当たり使用量の推移

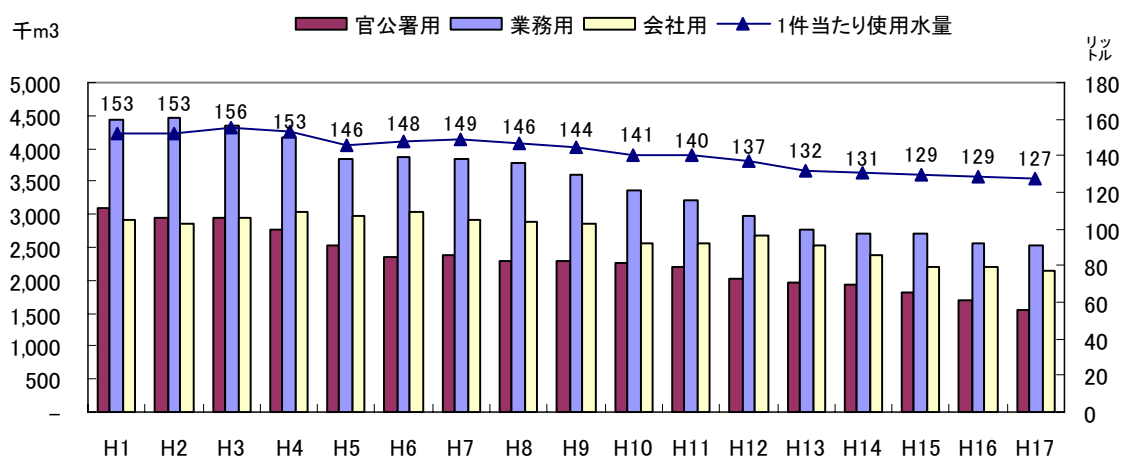


図 1-4 1 件 1 日当たり都市活動用水量の推移

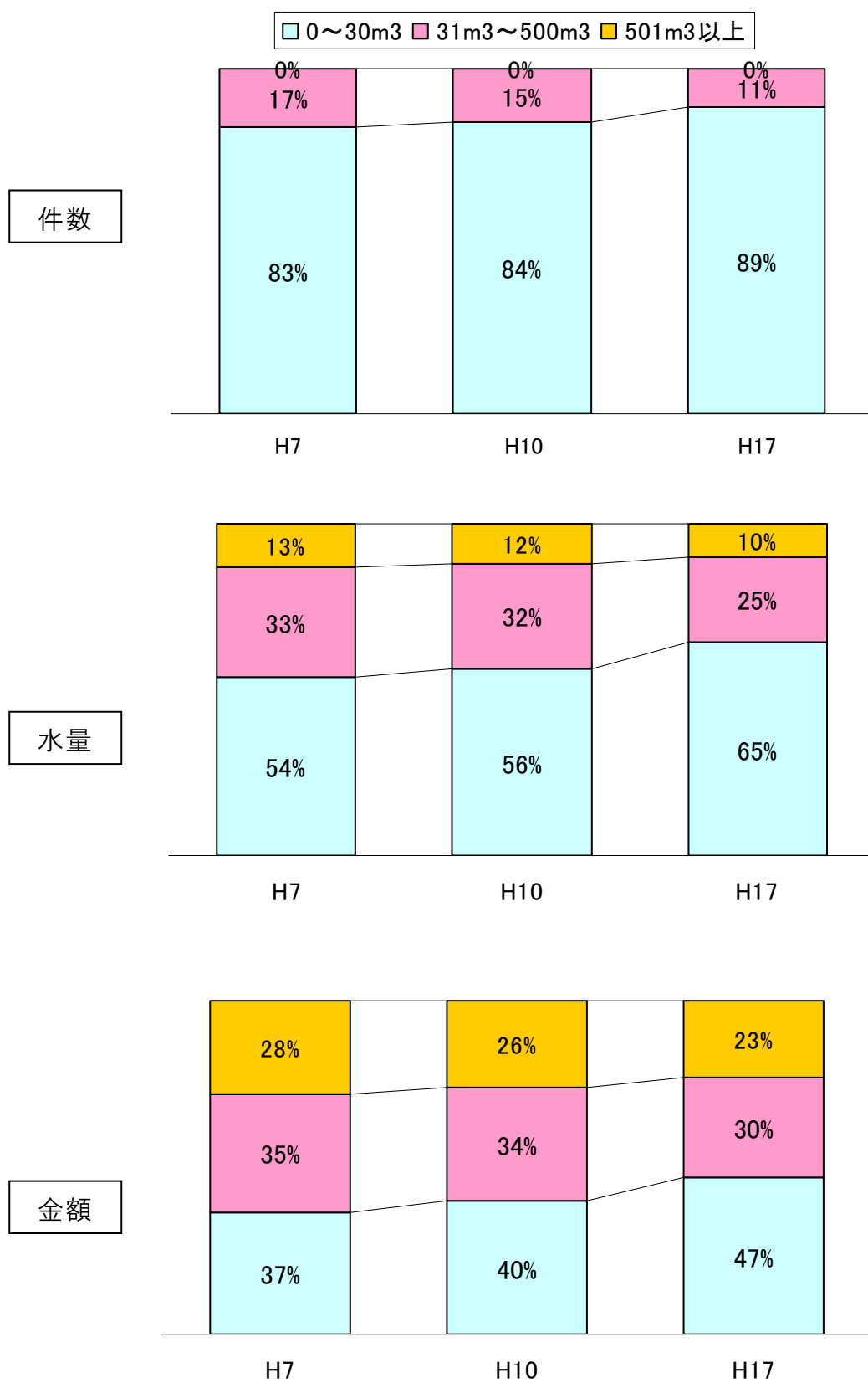


図 1-5 水需要構造の変化

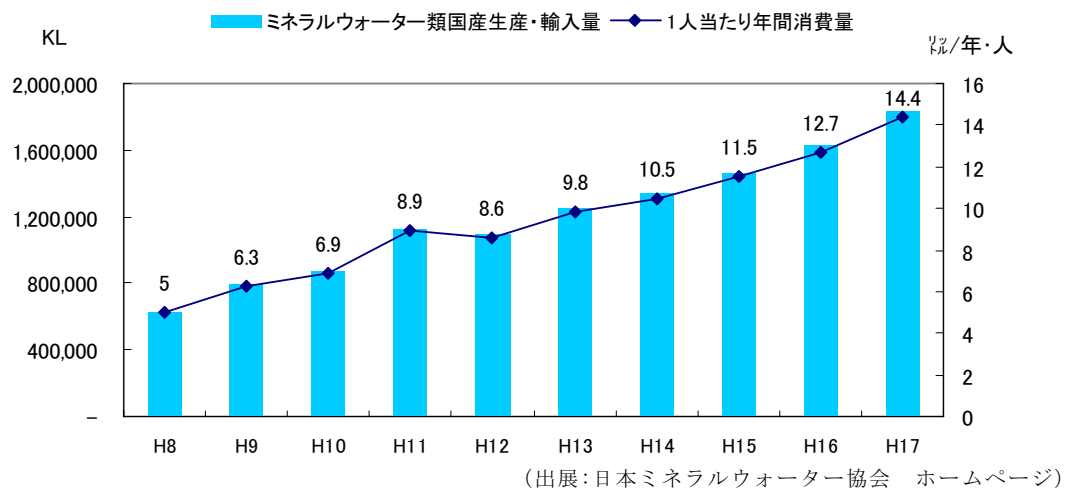


図 1-6 ミネラルウォーター類の推移

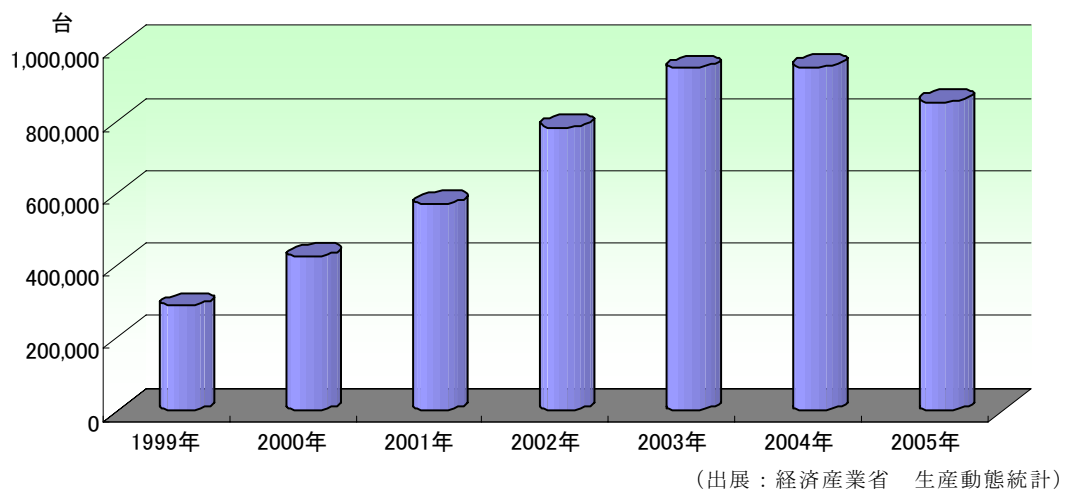


図 1-7 食器洗い乾燥機の需要

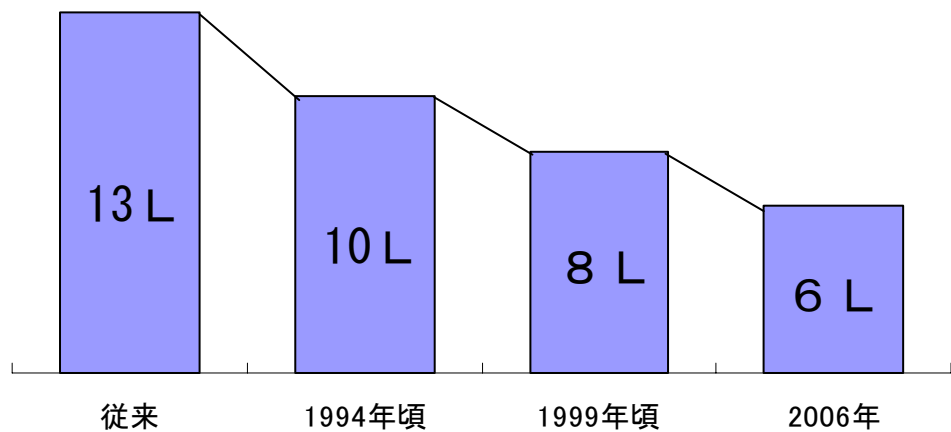
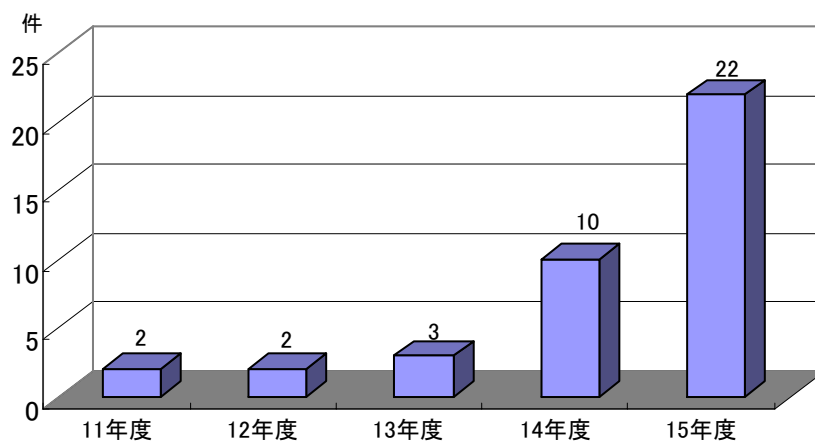
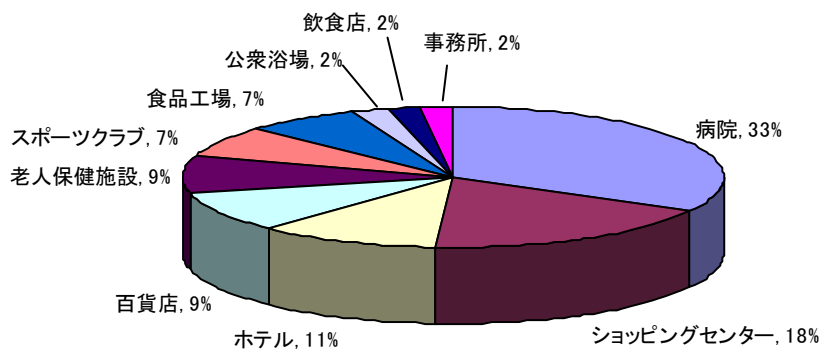


図 1-8 トイレの1回当たり水使用量



(出展：日本水道協会 地下水利用専用水道の拡大に関する報告書)

図 1-9 大阪府内における専用水道の設置件数



(出展：日本水道協会 地下水利用専用水道の拡大に関する報告書)

図 1-10 大阪府内における専用水道を導入した使用者の業種

2 財政状況

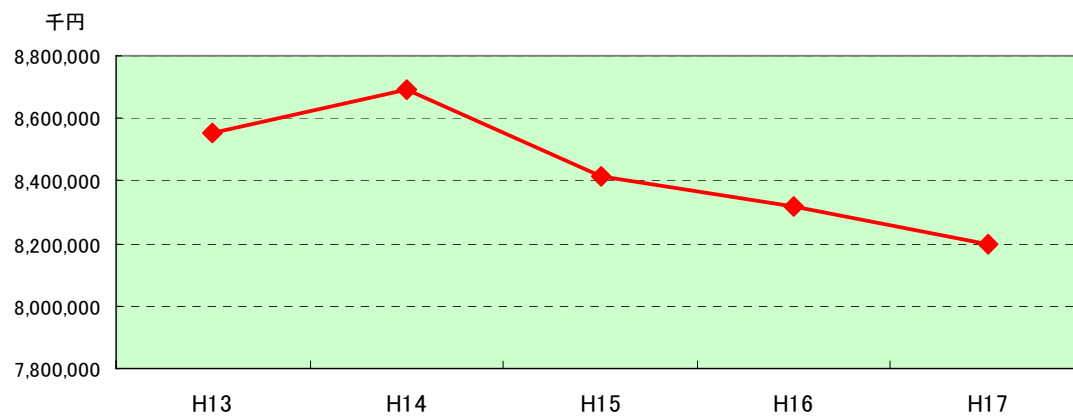


図 2-1 前回料金改定年度（平成 13 年 6 月）からの給水収益の推移

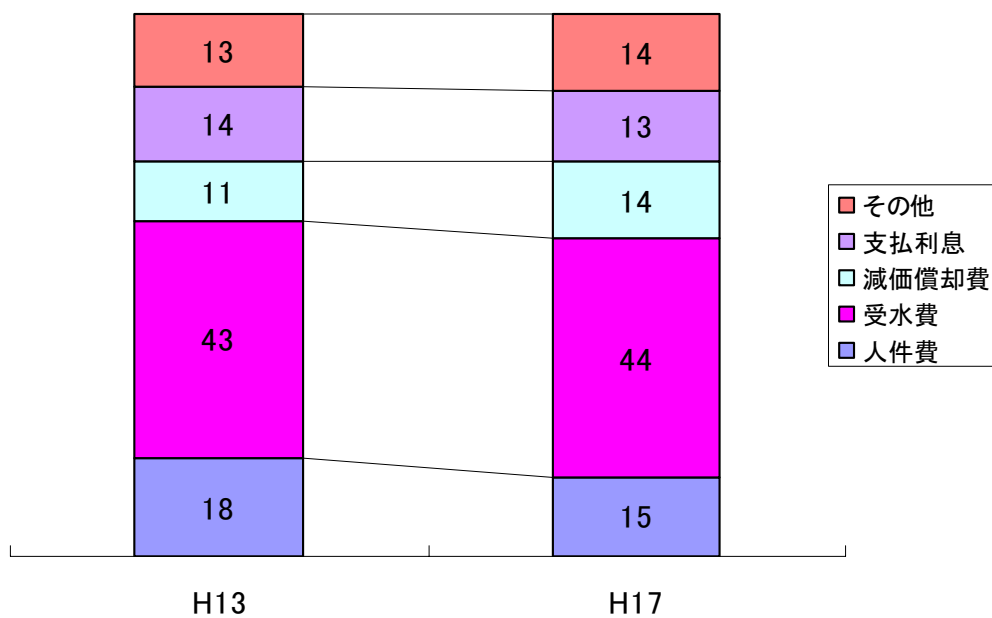


図 2-2 費用構成の推移

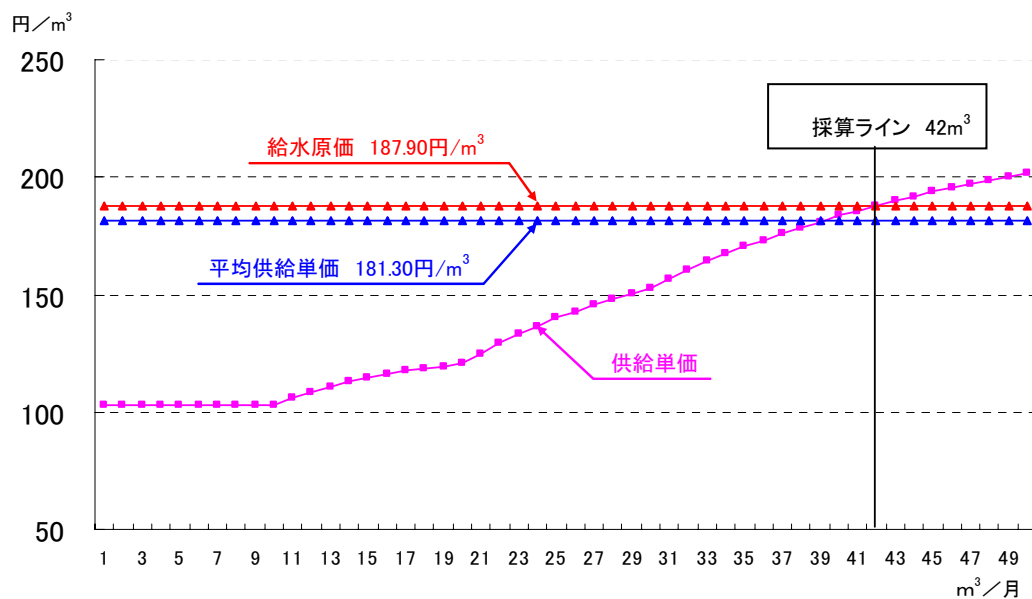
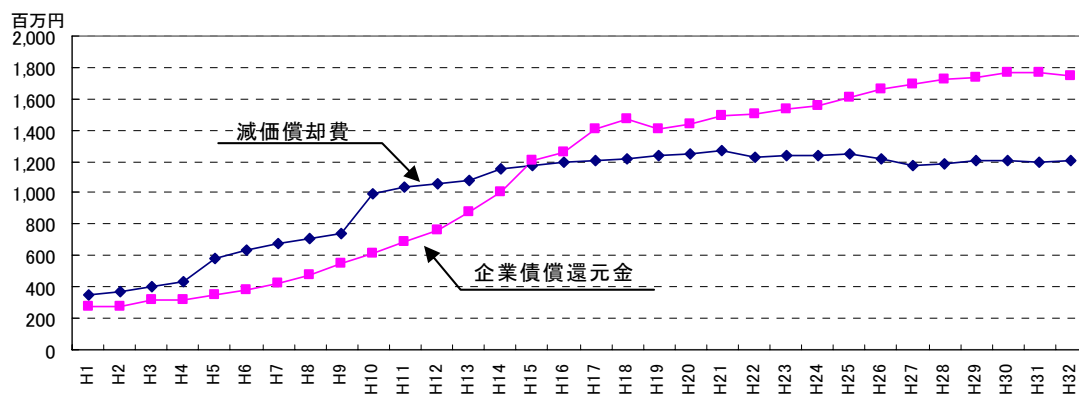


図 2-3 給水原価と供給単価（平成 17 年度末）



※建設改良費 10 億円/年、企業債発行額 7 億円/年、償還利率 3%/年、定額法により算定

図 2-4 減価償却費・企業債償還元金の推移

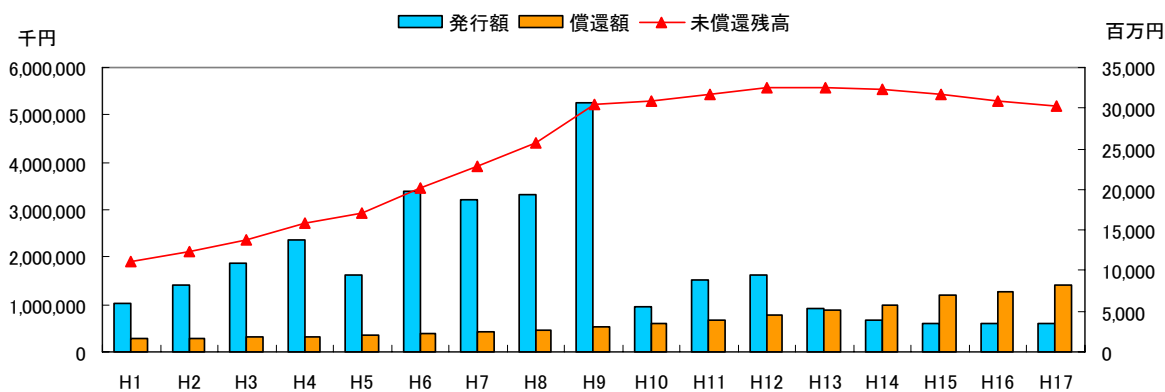


図 2-5 企業債状況

3 効率的経営の取組み

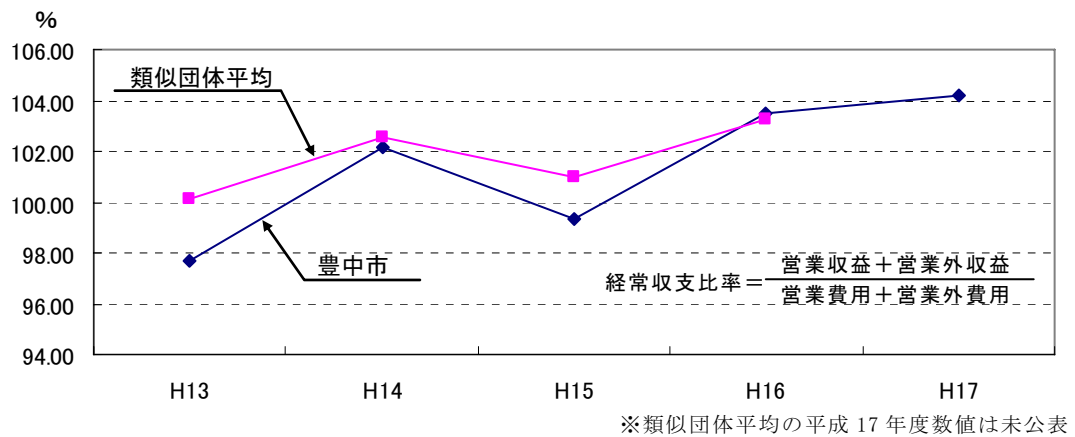


図 3-1 経常収支比率

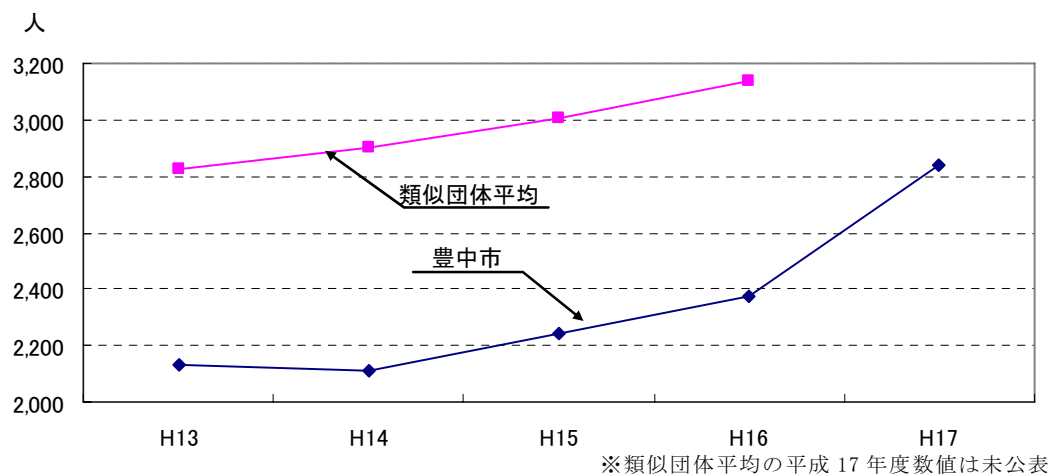


図 3-2 職員一人当たり給水人口

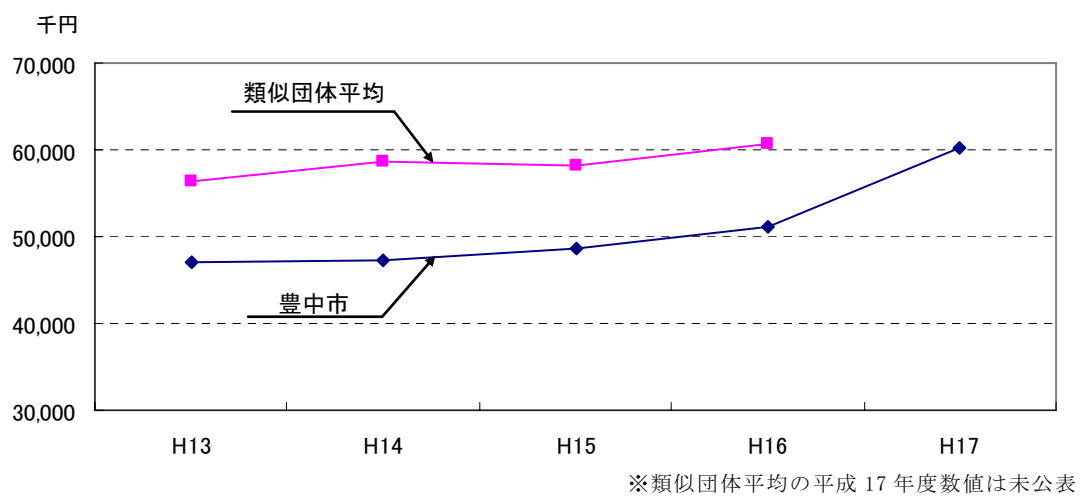


図 3-3 職員一人当たり給水収益

4 施設状況

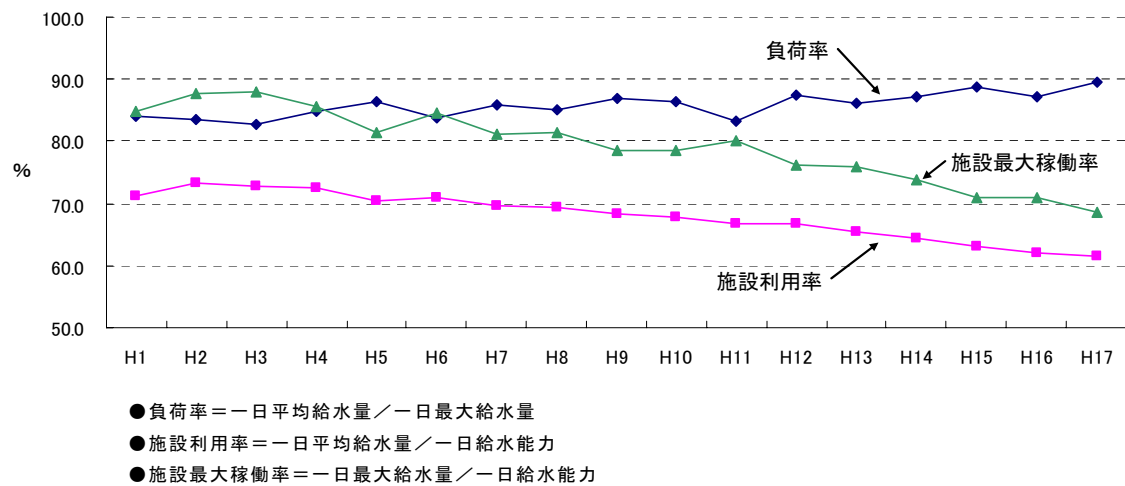


図 4-1 施設稼働状況

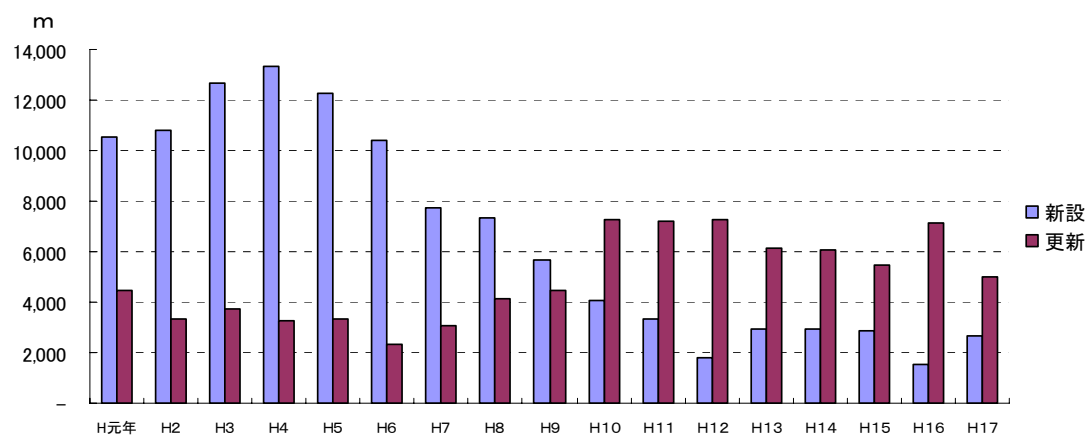


図 4-2 管路整備状況

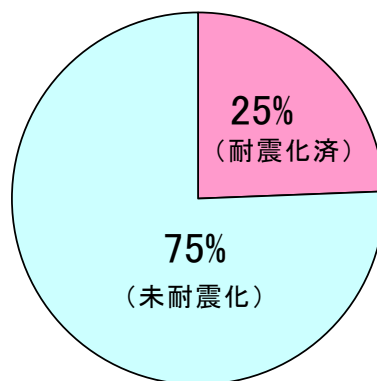


図 4-3 主要管路（口径 200 ミリ以上）における耐震化状況（平成 17 年度末）

表 4 配水池の竣工年度および耐震診断実施年度

配 水 池		竣工年度	耐震診断実施年度
柴 原 配 水 池		平成13年(2001年)度	耐震化済み
柿 ノ 木 配 水 池		昭和43年(1968年)度	平成17年(2005)度
緑 丘 配 水 池		平成9年(1997年)度	耐震化済み
新 田 配 水 池	北池	昭和35年(1960年)度	平成17年(2005)度
	南池	昭和39年(1964年)度	
野 畑 配 水 池		昭和40年(1965年)度	平成18年(2006)度
寺 内 配 水 池		昭和46年(1971年)度	平成18年(2006)度

ブロック割図（平成17年度末現在）



図 4-4 配水小ブロック化計画図



图 4-5 災害時給水拠点図

5 料金体系

(1) 現行の料金体系

二部料金体系

用 途	基本水量	基本料金(円)	超過料金(円) (1m ³ につき)	
一 般 用	10m ³ まで	1,029	1～10m ³	0
			11～20m ³	138
			21～30m ³	218
			31～50m ³	275
			51～100m ³	345
			101～500m ³	384
			501m ³ 以上	428
湯 屋 用	300m ³ まで	21,779	301～2,000m ³	96
			2,001m ³ 以上	120
家 事 共 用	10m ³ まで	943	11m ³ 以上	124
臨 時 用	—	—	1m ³ につき	572

用途別料金体系

基本水量制

通増型料金制

図 5-1 現行の料金体系

(2) 用途別料金体系／口径別料金体系

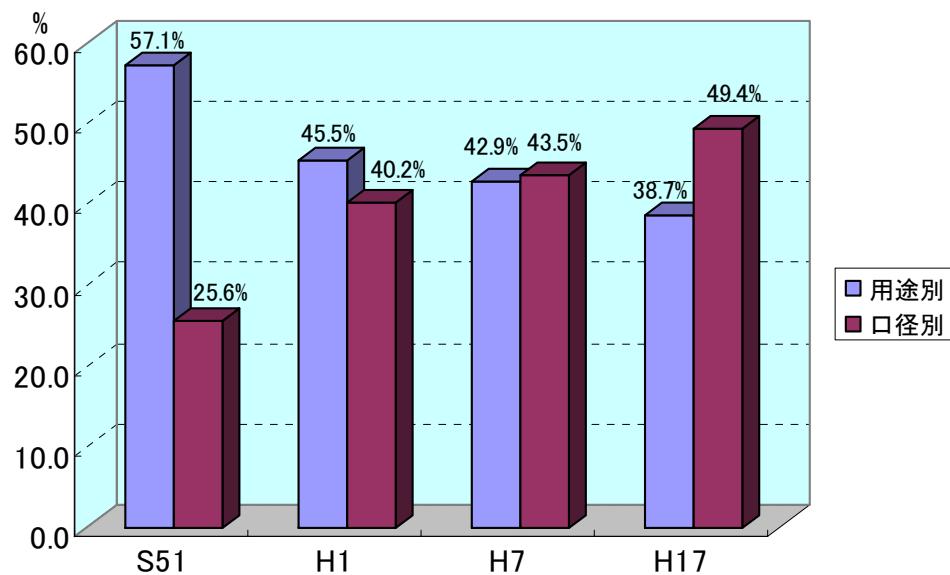


図 5-2 全国における用途別・口径別料金体系の推移

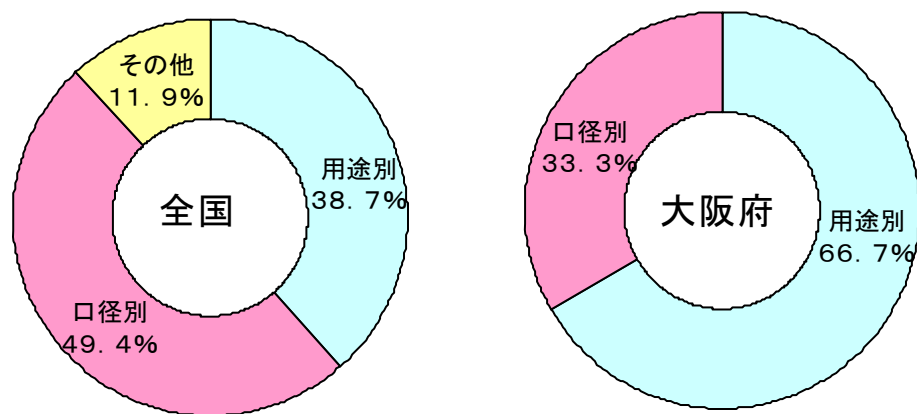
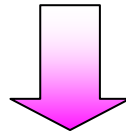


図 5-3 用途別・口径別料金体系状況（平成 17 年 4 月 1 日現在）

用途別料金体系(一般用)

用 途	基本水量	基本料金	超過料金					
			11～20m ³	21～30m ³	31～50m ³	51～100m ³	101～500m ³	501m ³ 以上
一 般 用	10m ³ まで							



口径別料金体系表(一般用)

用途	口径 (mm)	基本料金	従量料金						
			1～5m ³	6～10m ³	11～20m ³	21～30m ³	31～50m ³	51～100m ³	101m ³ 以上
一 般 用	13								
	20								
	25								
	30								
	40								
	50								
	75								
	100								
	150								
	200								
	250								
	300以上								

図 5-4 用途別料金体系から口径別料金体系へ (イメージ)

(3) 基本水量制

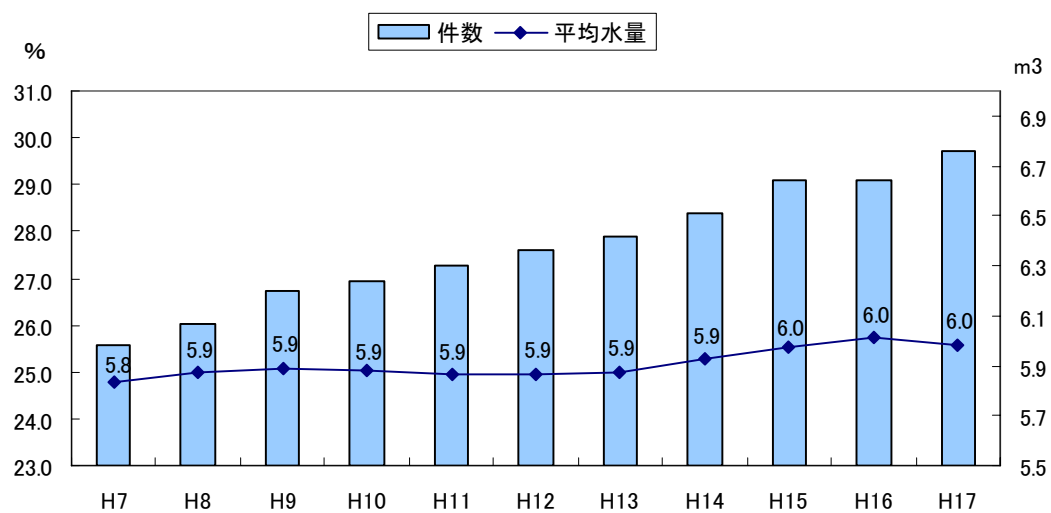
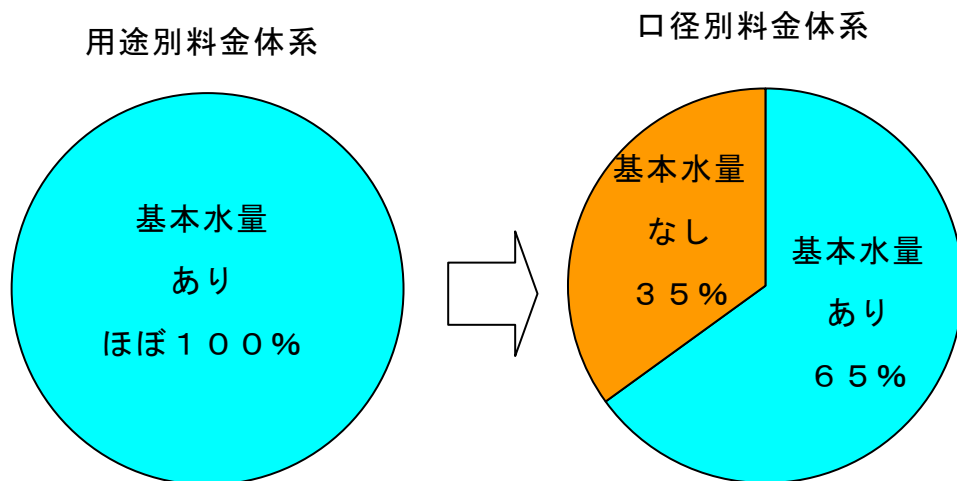


図 5-5 1 か月当たり 10 m³ 以下の占める件数割合と平均使用量の推移



(出展：日本水道協会 水道料金表)

図 5-6 料金体系別にみた基本水量制の導入状況（平成 17 年 4 月 1 日現在）

(4) 逦増型料金制

$$\text{逦増度} = \frac{428 \text{ 円 (最高単価)}}{1,029 \text{ 円 (基本料金)} \div 10 \text{ m}^3 \text{ (基本水量)}} = \text{約 } 4.2 \text{ 倍}$$

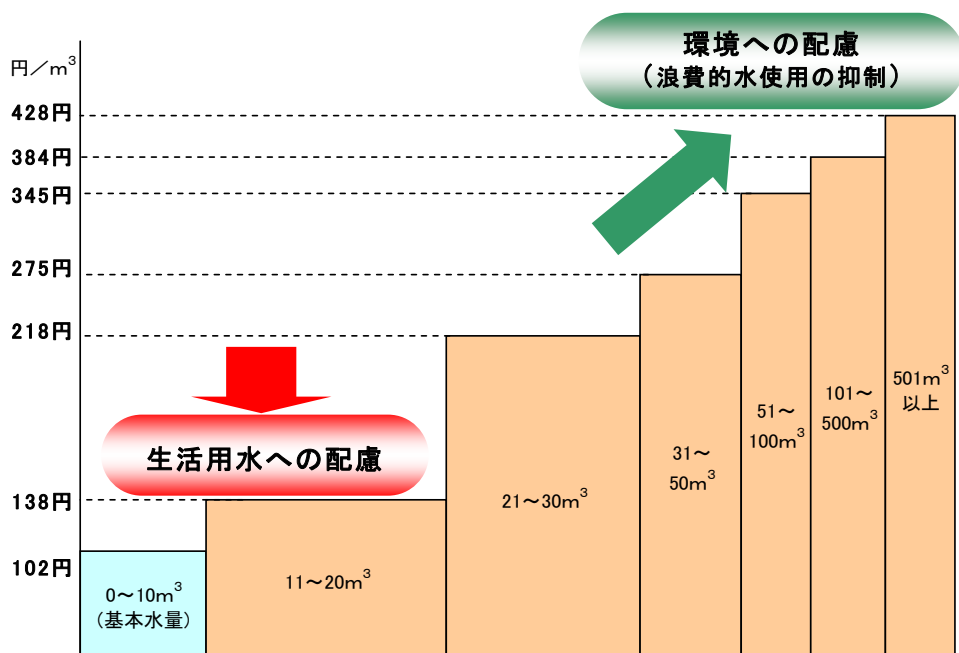


図 5-7 現行の逦増型料金制

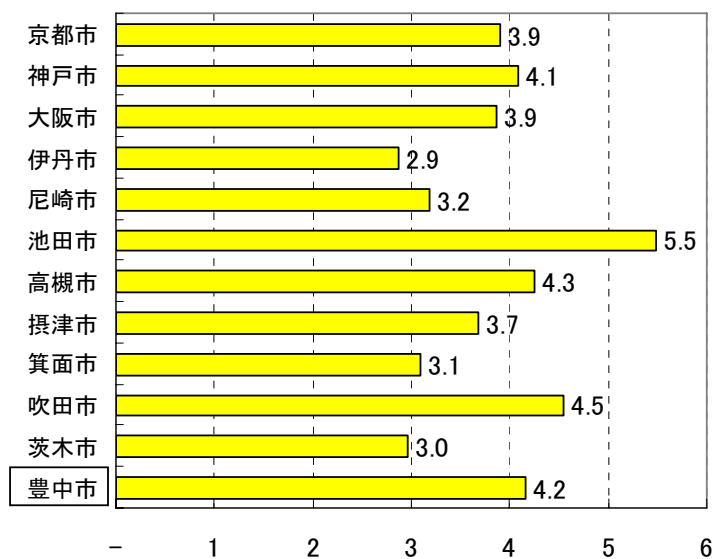


図 5-8 他都市における逦増度